

第12回日本食育学会 学術大会



「健康食育プログラム」の実践活動が、健康感や料理作りの意欲に及ぼす効果



甲南女子大学

○濱口 郁枝¹, 大石 ひとみ¹, 西村 佳子², 菊池 陽子², 山本 勝巳², 廣瀬 頼子², 岡下 二三代²

1 甲南女子大学人間科学部生活環境学科, 2 大阪ガスネットワーク株式会社

目的: 小学校高学年を対象とした大阪ガスネットワーク(株)の健康食育プログラム「○○○しいみそ汁をつくってみよう!」を受講後の意識や感想を分析し、講座の効果を検証した。

事業・活動内容

子どもたちが健康的な食生活について自ら考え、ガス火を使って料理する楽しさを体験しながら学ぶプログラム

1. 健康と食について学ぶ
2. 煮干しの味覚体験
3. 調理実習と試食
4. 振り返り「私の健康宣言」

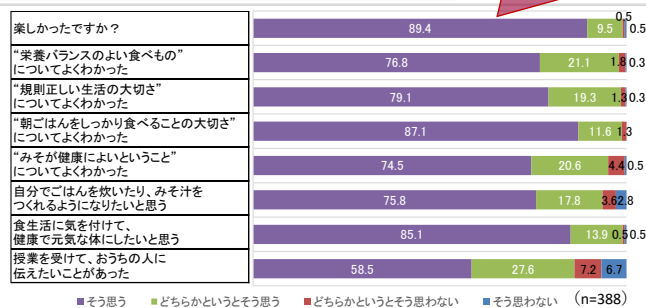
- 講座: 2022年11月~2023年2月
- アンケート調査の対象: 調査に協力を得た7校502名(4件法)(有効回答388名、77.3%)
- 統計解析: IBM SPSS Statistics 22
- テキスト分析: ユーザーローカルAIテキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)



事業・活動成果1

子ども「授業を受けた感想」

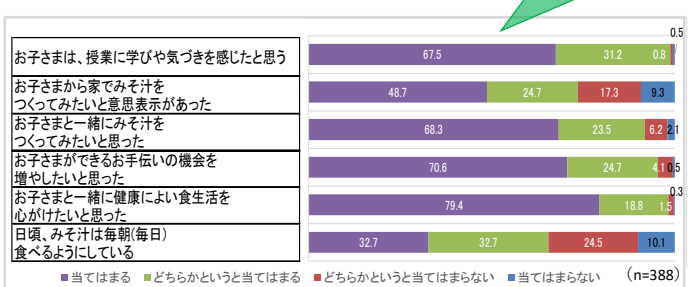
「そう思う」、「どちらかというと思う」割合が高い



事業・活動成果2

保護者「授業の様子や感想」

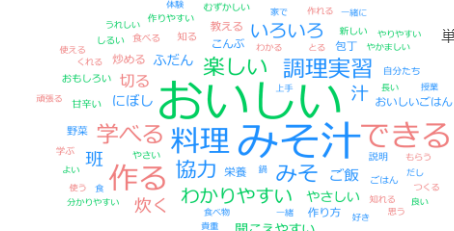
「当てはまる」、「どちらかという当てはまる」割合が高い



事業・活動成果3

子ども「楽しかった理由」

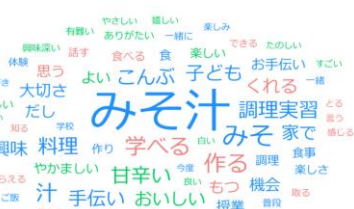
スコアが高い単語を抽出し値に応じた大きさで図示
単語の色: 青色/名詞、赤色/動詞、緑色/形容詞・形容動詞、灰色/感動詞



※ラベル
料理の楽しさ
料理スキルの向上
友達と作る充実感
料理の達成感
料理の手順の理解

事業・活動成果4

保護者「講座後に気付いたこと」



※ラベル
料理の楽しさ
家庭での食事作り
食文化の学び
栄養の理解

※出現回数の多い文章を分類シラベル化

事業・活動成果5

子ども・保護者 因子分析

子ども「食事と健康への理解」Cronbach α=0.791	因子
“栄養バランスのよい食べもの”についてよくわかった	0.748
“規則正しい生活の大切さ”についてよくわかった	0.737
“みそが健康によいということ”についてよくわかった	0.679
“朝ごはんをしっかり食べることの大切さ”についてよくわかった	0.595
食生活に気を付けて、健康で元気な体になりたいと思う	0.537
自分でごはんを炊いたり、みそ汁をつくれるようになりたいと思う	0.534

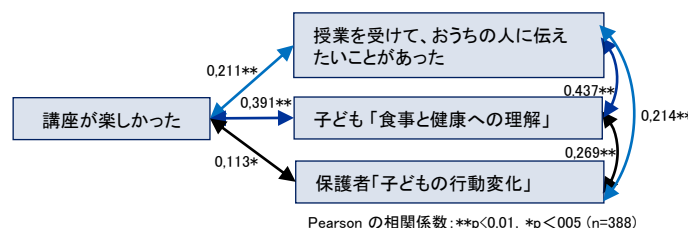
因子: 子どもの回答: 食事と健康への理解
「楽しかった」授業を受けておうちのの人に伝えたいことがあったを除去、1因子構造を確認

保護者「子どもの行動変化」Cronbach α=0.736	因子
お子さまと一緒にみそ汁をつくってみたいと思った	0.841
お子さまから家でみそ汁をつくってみたいと意思表示があった	0.726
お子さまから家でみそ汁をつくってみたいと意思表示があった	0.581
お子さまと一緒に健康に良い食生活を心がけたいと思った	0.503
お子さまは、授業に学びや気づきを感じたと思う	0.469

因子: 保護者の回答: 子どもの行動変化
「日頃、みそ汁は毎朝(毎日)食べるようになっている」を除去、1因子構造を確認

事業・活動成果6

子ども・保護者 相関関係



今後の課題: 受講1ヶ月後に実施した継続調査の結果を分析し、行動変容や課題を把握する

子どもが「講座が楽しかった」と感じたことは、子ども自身の「食事と健康への理解」、「おうちの人に伝えたい」こと、保護者が感じた「子どもの行動変化」において相互関係があった。

「健康食育プログラム」の実践活動が、健康感や料理作りの意欲に及ぼす効果

○濱口 郁枝¹、大石 ひとみ¹、西村 佳子²、菊池 陽子²、
山本 勝巳²、廣瀬 頼子²、岡下 二三代²

1 甲南女子大学人間科学部生活環境学科, 2 大阪ガスネットワーク株式会社

【目的】小学校高学年を対象とした大阪ガスネットワーク（株）の健康食育プログラム「○○○しいみそ汁をつくってみよう！」を受講後の意識や感想を分析し、講座の効果を検証した。

【事業・活動内容】講座は、健康と食についての学び、煮干しの味覚体験、調理実習と試食で構成され、子どもたちが健康的な食生活について自ら考え、ガス火を使って料理する楽しさを体験しながら学ぶプログラムである。2022年11月～2023年2月に講座を実践し、産学連携研究として、アンケート調査に協力を得た7校502名（有効回答388名、77.3%）の結果を分析した。

【事業・活動成果】「講座が楽しかった」子どもは、89.4%、保護者に「家でみそ汁を作ってみたい」と意思表示した子どもは、48.7%であった。テキストマイニングを用いて感想を分析した結果、子どもは、「友達とみそ汁やご飯を作ることができた喜び」「栄養や健康について学んだ充実感」の頻度が高かった。家族に伝えたいことは、「栄養バランスの重要性」「料理の楽しさ」が挙げられた。また、子どもは「家庭での食事作り」に興味を示していたことが示唆された。

【今後の課題】受講1ヶ月後に実施した継続調査の結果を分析し、行動変容や課題を把握する。